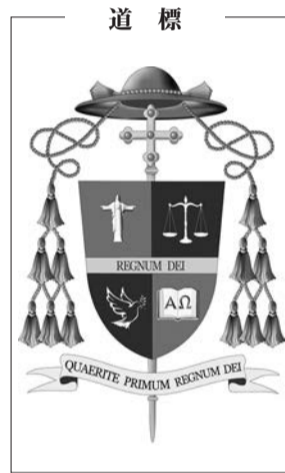




〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



奄美宣教再開記念日に講演とミサ

「もう一度大島の信仰を元気に」と祈願

名瀬聖心教会で9月15日、奄美宣教再開を記念する講演会とミサがあった。ミサの説教で中野裕明司教は「72年前のこの日、戦前から続いた奄美カトリック迫害のため13年間途絶えていたミサが終戦後初めて行われ、宣教が再開された」と語り、教区活性化の一環として、「奄美宣教再開記念日」を奄美地区での教区行事として定着させたい考えを明らかにした。



奄美大島では、戦前のカトリック排撃に伴い、1934年の神父島外追放以来、ミサがなかった。終戦後の1947年、カプチン会のフェリクス・レイ神父(後の琉球代牧区教区長と

オーバン神父が来島。同年9月15日、名瀬市(当時)の池田嘉次郎氏宅で、戦後最初のミサがささげられた。「奄美宣教再開記念日」はこの故事に因む。迫害に堪え信仰を繋いだ島民の誇りと再び信仰を表明できる日を迎えた喜びの顕彰、並びに将来への信仰の継承と発展を願い、中野司教が発案した。

中庭を清めた。また聖なる祭具類を新しくし、燭台、香壇、供えのパンの机を神殿に運び入れ、香壇には香をたき、燭台には火をともし、神殿内部を照らした」とのアカバイ記I(4・38、50)を引用。様々な実例を挙げ、「神のみ摂理を感じる」と語った。

名譽司教の他、奄美地区で宣教司牧する司祭が共同司式した。中野司教は説教で、鹿児島教区を「奄美群島と鹿児島本土という二本の脚に支えられた体」と譬え、「二つがバランスよく一体となつてはじめて生きる」と教区における奄美地区の重要性を説明。「奄美の宣教史を振り返り、歴史を確認し、神の働きを見出してほしい」と話した。

そして、「宣教再開の日を記念することを通して、島の信仰を再び元気にした

福者レオ税所七右衛門 殉教祭
2019年11月17日 (日曜日)

プログラム
12:30~13:00 受付
13:00~13:30 セレモニー
13:30~15:00 記念ミサ
(司式：中野裕明司教)

場所：カトリック川内教会
主催：カトリック鹿児島司教区 川内教会レオ殉教祭実行委員会
問合せ：薩摩川内市若松町4-7 TEL0996 (22) 3738

「奄美宣教再開記念日」を教区行事として定着させたい考えを示した。またミサでは、コンベンツアル・フランシスコ会の松永正男神父(古田町マリア教会主任司祭)の叙階50年(金祝)も祝われた。

9月15日のカテドラル献堂記念日を「教区の日」として鹿兒島教区は9月16日(月)、鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂で

ラル・ザビエル記念聖堂で教区の日をミサをささげ、その中で今年ダイヤモンド祝、金祝、銀祝という節目を迎える教区で働く司祭・修道者を紹介し、これまでの働きに感謝するとともに今後の活躍を祈った。今年記念の年を迎えた司祭、修道者は次の通り。

- ダイヤモンド祝ⅡT・メニツヒ神父(レデンプトール会・川内)、Srカタリナ・ガンドル(レデンプトール女子)、Sr須賀公子(幼きイエズス会・入来)、Sr濱本一重(カリタス会・名瀬)
- 金祝Ⅱ松永正男神父(コンベンツアル会・古田町)、Sr米田綾子(純心・鹿児島)、Sr下川千穂子(レデンプトール女子)
- 銀祝ⅡSr千田広美(カリタス会・平田)、Sr小牟田久美子(レデンプトール女子)

司教の手紙

皆様お元気でしょうか？ 今回は、教会の3つの柱の3本目である「派遣」について考えてみます。ミサの最後に「感謝の祭儀を終わります。行きましよう、主の平和のうちに。」という司祭の言葉を持って、ミサは閉祭します。ミサ (missa) は元来ラテン語 (mittere) から派生した、散会された、という意味を持っています。さらに、同じ語源から、missio (ラテン語) が生じ、英語のミッションとなつて日本語になりました。ミッション・スクールやミッションナリ(宣教師)は、従つて、派遣された学校、派遣された者、という意味になります。名は体を表す、と言いますので、この「派遣」は誰から、誰に向かつて、どのような方法で、なされるのかについて考えます。

①誰から？ 「父がわたしをお遣わしになつたように、私もあなたがたを遣わす。」(ヨハネ20:21) 「聖霊を受けなさい。」(ヨハネ20:22) 復活の日の夕方、イエスは弟子たちに現われて、このように言われました。ここで分かるように、派遣元は天の御父です。御父は、御子と聖霊で弟子たちを包み込みます。御子

記すとき、そのことを思い出し、彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい。』(ヨハネ20:22) ②誰に向かつて？ 「全世界へ行つてすべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ16:15) イエスの思いは、全人類が幸せになることですが、「すべての造られたもの」には人間だけではなく自然界全体が含まれていることを想起し

みんなが宣教師

鹿兒島教区司教 中野裕明

と聖霊はまるで御父の両腕のようだと考えることができます。宣教師というと、入国管理事務所の方々が指します。「宣教師ビザ」を発行するためです。しかし、教会では父と子と聖霊の名による洗礼と堅信を受けた人は皆さん宣教師なのです。自分の体に十字架のしるしを

ましよう。また福音とは「キリストご自身」と言い換えることができます。このことは、例えば「神の子イエス・キリストの福音の初め」(マルコ1:1)とか、「この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです」(ローマ書1:2)とかの聖書の文脈の中で理解できます。と

ここで「福音」とは良い知らせという意味ですが「自分にも他人にとつても福音である」と言つても、そこで言われている福音はイエス・キリストとどんな関係があるのかを吟味する必要があります。③どのような方法で？ 「神は、宣教という愚かな手段によって信じるものを救おうと、お考えになつたのです。」(1コリント1:21) この文章は、大宣教師聖パウロの言葉です。彼は、知恵のあるギリシヤ人への宣教で大変苦心しました。「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシヤ人は知恵を探しますが、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えていきます。」(同1:22、23) 宣教師は自分の知恵や能力に頼りません。かえつて、自分を救つてくださった神のわざ、力に頼るのです。レデンプトール会の会則にあるそうです。「会員は病床でも宣教師である」と。



子ども食堂と教会

紫原教会 主任司祭 山口好信

教区の皆さん、と子ども食堂へのご協力ありがとうございます。スタッフ一同、心より感謝しています。

さて、一般の食堂やレストランと「子ども食堂」の大きな違いは何だと思いませんか。一般の食堂やレストランでは食事の提供者とお客さんは対等です。ある食事に対してそれに見合った料金を支払って、それをいただくからです。提供する側と受ける側は対等です。遠慮することなく食べて、不満があれば「お金払って損した」とつぶやくこともできます。

では、「子どもは無料、大人は安い料金」で食事を提供している子ども食堂はどうでしょうか。ある意味で、提供者は「富める人、強者」であり、お客さんは「貧しい人、弱者」なのです。提供者とお客さんは初めから対等な関係ではないのです。でも、お客さんたちは来てくださるのです。どうしてでしょうか。「富める人・強者」と「貧しい人・弱者」の関係ではなく、同じ人間として自分たちは受け止めてもらっている素直に感じているからでしょう。

私たち食堂側は、たまたま提供者側に立っているのではありません。ご承知の通り、わたし自身、自分のお金で食堂を開いているわけではありません。聖書的に見ても、どのお客さんも同じ人間であり、神から作ら

れ神から同じように愛されている人間です。提供者もお客さんも対等です。たまたまこの食堂では立場を異にしているだけです。

教会も子ども食堂と同じです。かつて預言者エレミヤは「しかし来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれであり、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らはわたしの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、主を知れ」と言っています。主を知れ。彼らにすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない」(エレミヤ書31・33、34)と告げました。モーセを仲介者とする古い契約がもう破綻していること、新しい契約の時代が来るのだと言いました。

新しい契約は直接私たちの心に記されるというのです。イエス・キリストを信じ、キリストを主として受け入れて生きるなら、それはもう新しい契約の中にあることです。このことはパウロも第2コリント書第3章で言っています。

キリストが一人ひとりの心においてくださること、これが新約です。新しい契約とはイエス・キリストが仲介者となって私たちが神と直接結ばれるということ。個人個人がキリストを通して

神と結ばれるのです。必要なのは「信仰」だけです。イエスが十字架上で命を捧げることで天の至聖所(父なる神)への道を私たちに開いてくれたのです(ヘブライ人への手紙第8、9章)。神殿祭司とか預言者とか王とかが仲介者として民を指導する時代は終わり、イエスキリストご自身が「預言者・祭司・王」として私たちを神の元に導く道そのものになってくださった。司教や司祭はそのお手伝いをする奉仕者になります。司教も司祭も「一匹の迷える羊」としてキリストに救われるべき存在です。救われるかどうかもまだわかりません。神のみぞ知りたもうことです。

「すべてのキリスト信者は、キリストにおける新生のゆえに、尊厳性においても行為においても真に平等であるから、みな、それぞれ

れ固有の立場と任務に応じて、キリストの体の建設に協働する」(カトリック新教会法典 第208条)。

この基本的な尊厳性と平等性を、信徒の皆さんも教皇も司教、司祭も持つています。対等です。この土台の上に教会の位階的制度つまり教皇・司教・司祭は存在します(同じく第330条以下)。

先日9月2日、カテドラルで上智大学の川村信三教授の講演がありました。その中で第二バチカン公会議の課題は3つあったと言われました。

一、中世以来のヨーロッパ文化と教会の結合というヨーロッパ中心主義の克服。

二、教会組織の過剰な中央集権主義(ローマ中心主義)の克服。

三、教会内の聖職者中心主義の克服です。

そしてその上に、司祭に「受動的信徒」ではなく自主独立して活動する「能動的信徒」の養成が必要だということ。その昔、教皇や司教は教会だけでなく世俗的な権威

共に進もうカトリック・スカウトと

ボーイスカウト鹿兒島21団 団長 ガブリエル・ルカ 伊東清寛

ボーイスカウト運動は1907年にイギリス人のベドレン・パウエル卿により始められ、現在は世界156カ国、4千万人以上が加盟して活動しています。

そのうちカトリック・スカウトはジャーク・ペイン神父によって創設され、ローマに本部を置き、世界中にスカウトが数万人います。日本では非常に減少

+KABAYAN SEKSYON+

Ang Dukha: Isang Kristiyanong Pananaw

Sino ang mga "dukha" na kailangan paglaanan ng ating paglilingkod? Pakinggan natin ang mga Obispong Pilipino sa kanilang dokumento ng "To Bring Glad Tidings to the Poor (Lu 4:18)."

"Ang dukha ay hindi lamang bilang sa isang ulat statistiko. Ang dukha ay hindi lamang yaong mga walang pinag-aralan, mga madusing, mga walang muwang, mga walang damit, mga ginagamit, mga ipinupuslit, at ang mga maysakit na mapanglaw na tumitingin sa ating mga mata na humihingi ng pagkilala. Sila yaong tinutukoy ni Hesus nang sabihin niyang, 'Anuman ang gawin ninyo sa isa sa maliliit na ito na mga kapatid ko, sa akin ninyo ginawa' (Mt 25:40)."

"Ginawa ni Hesus ang sarili niya na kabilang sa mga dukha. Mula sa kanyang krus, sumusulyap si Hesus sa ating mga mata at hinihipo niya an gating mga puso ng may pag-ibig. Ang kanyang pag-ibig sa atin ang paraan para matanggap natin an gating mga personal na pagkakamali sa diwa ng sama-samang pagiging mga sugatan. Ang pag-ibig niya ang tahimik na nagsasabi sa ating: 'Humayo, at magpagaling.'"

Kailangan natin palaging itanong: "Paano natin minamahal ang ating kapwa? Paano natin minamahal lalo na ang mga dukha, ang mga dukha ng Panginoon? ...Sa mga dukha, utang natin ang pag-ibig gaya ng pag-ibig ng Diyos na unang nagmahal sa atin."

Kung nasa sa atin ang espiritu ni Kristo, ay magagawa natin ang pagmamahal sa mga dukha hindi lang sa salita kundi sa gawa. Yan ang ipinakitang halimbawa ni Hesus sa atin noong siya'y nandidito pa sa ibabaw ng lupa. Kaya nga sinasabi niya na ang 'anumanang ginawa mo sa pinakamaliliit na kapatid ko, ay ginawa ninyo sa akin.' Sana maging buhay sa atin puso ang Mabuting Balita ni Hesus.

Katesismo sa Para sa mga Dukha (Fr. Dino Orolfo)



権力を持つて人民を支配して来ました。でも今は霊的な奉仕の権威を持つていられる存在のはずです。この辺りは次回説明するつもりです。

代ごとに決まりや掟を執行することに努力しているからです。

世界のスカウトキャンプ100周年記念にベネディクト16世教皇がメッセージで「平和を実現するスカウトに」で2007年6月にバチカンから発表されています。特にカトリック・スカウトは人々の僕になったキリストに倣って他の人のために奉仕する意欲と思いやりを持った生き方を営むようスカウト教育と責任感を培うよう教えること。また指導者は家族から任せられた若い人々の個性

聖パドレ・ピオの集い

10月12日 (土) 13時~16時
名瀬聖心教会

①聖体賛美式 ②ロザリオの祈り
③ミサ ④癒しの祈り

※12時30分からゆるしの秘跡を受けられます。(自由献金)

をキリストとの出会いに導き、教会の生活を良く知るように、年代に応じて教えることにあります。

日本のボーイスカウト運動の指導者はみなボランティアで子供たちと接し、それなりの研修を受けて年代ごと、幼稚園生、小学生、中学生、高校生、大学生年代とに分かれ、年代ごとに理解できる年間計画に基づいて毎月活動しています。四季に応じた活動、「谷山ふるさと祭り」や「鹿兒島おはら祭り」、「鹿兒島マラソン」の奉仕などもあり

ますが、夏は一年間のカツ

奄美地区教会学校が合同キャンプ

子どもたちの心が一つになった1日

8月12日(月)、台風の影響で心配された天気も見事に「晴天」、その中で奄美大島地区全体の教会学校サマーキャンプが行われました。

実は、本来のキャンプ予定日が台風の影響で前々日に延期となっていたので、そこで仕切り直しで決めたのがこの12日の祝日

翌日からは大雨が続き、海に出ることもできない天気の中、この1日だけ晴天のプレゼントだった今年のサマーキャンプ。それぞれが心の中に神さまを感じた一日になったのではないのでしょうか。奄美の教会学校が一つになっていく予感がする時間でした。

(報告・星村文乃)



「花火はとても明るくてきれいでした。カレールーは少しからかった。水鉄砲は時間が長かった。海は満足した。キャンプ、来年も行く！」「みんなでパプリカを踊ったのが楽しかった。」「ごせいたいとおいしくたべられてよかったです。」「少しねむくなりました。でもお祈りをする大切

さがわかりました。「パンがほしかった」「ごせいたいってどんな味？」

参加した子どもたちは、とても素直にキャンプ、ごミサの感想を書いてくれました。

10月13日、14日に教区シノドス 宣教司牧の基本理念とその方向性を確定

来たる10月13日(日)、14日(月)の2日間、教区シノドス(教区代表者会議)がカテドラルと教区本部で開催される。テーマは「宣教司牧の基本理念とその方向性を確定する」。

教区本部では、同会議の準備を進めるにあたり中野司教、末吉事務局長に有志信徒を加えたワーキンググループを組織した。

ワーキンググループでは、これまでに数回の作業部会を開き、DVDを制作しこれを小教区に配布しシノドスの意義を広め、大会

をより実り豊かなものにするために準備を進めてきた他、教区民の実態を探るために実施されたアンケート調査の分析等を行っていた。教区シノドスのプログラムは以下の通り発表された。

10月13日(日) 15時開会、15時35分司教講話「鹿児島教区シノドスの意義と課題」、16時20分分科会、19時15分交流会

10月14日(月) 9時分科会、10時閉会、11時10分閉会ミサ

また前日の9月1日(日)のザビエル教会の主日のミサを中野司教、末吉神父とともに共同司式した日本カトリック神学会出席のため鹿児島を訪れた阿部仲麻呂神父(サレジオ会)が、ミサ後に講演した。これは「ザビエル渡来470周年特別講演」として実現したもので、テーマは「教皇フランシスコのよるこびーキリストとともに生きる」だった。

神学者から宣教を学習

9月2日(月)と3日(火)の2日間、ザビエル教会と教区本部を会場に「日本カトリック神学会(鳥巢義文理事長)の学術大会が開かれた。31回目となった今年大会の総合テーマは「日本宣教再考」で、全国から30人を超える会員が出席し、それぞれの研究発表などで研究の促進を促し、また交流のひと時を楽しんだ。

2日午前10時半から始まった大会では、開会の挨拶に続き、川村信三神父(イエズス会・上智大学文学部教授)による基調講演「ザビエル型宣教時代の終焉と新たな局面」があり、一般にも開放された。

また前日の9月1日(日)のザビエル教会の主日のミサを中野司教、末吉神父とともに共同司式した日本カトリック神学会出席のため鹿児島を訪れた阿部仲麻呂神父(サレジオ会)が、ミサ後に講演した。これは「ザビエル渡来470周年特別講演」として実現したもので、テーマは「教皇フランシスコのよるこびーキリストとともに生きる」だった。

- ### 会と催し 10月
- 4日(金) サンタマリア神父叙階記念(1970年)
 - 5日(土) 朴昶奎神父霊名(聖フランシスコ)
 - 6日(日) デクルス神父命日(1980年)
 - 8日(火) 大松正弘神父命日(2018年)
 - 10日(木) 福岡英雄神父叙階記念(1989年)
 - 13日(日) 年間第28主日
 - 15日(火) 教区シノドス・教区本部及びカテドラル・14日 会・教区本部・14時
 - 18日(金) 聖ルカ福音記者
 - 20日(日) 内野洋平神父霊名
 - 20日(日) 年間第29主日
 - 20日(日) 世界宣教の日(献金)
 - 21日(月) レンブートル会例会
 - 24日(木) 大水如安神父命日(1994年)
 - 27日(日) 年間第30主日
 - 28日(月) 聖シモン聖ユダ使徒
 - 30日(水) ミタマヤ神父命日(1984年)
 - 【司教日程】4日カウンセリング講座、13、14日教区シノドス、16日司教養成委員会(東京)、17日聖マリア学園、20日ザビエル教会堅信式、21日聖血礼拝修道会誓願式、27日カタリナ祭

御降誕祭後には幼子殉教者の祝日があります。この日の朗読箇所を読むと身につまされますが、果たしてこのような残酷な出来事が本当に起こったのでしょうか。マタイ福音書に見られないこの箇所の史実性を考えてみると(2・13、18)、この話が事実であるかは疑わしいと言えます。

なぜなら、当時の政治家であり歴史家でもあるフラヴィウス・ヨセフが、自ら著した『ユダヤ古代史』や『ユダヤ戦記』の中でこれほどの大事件について何も触

れていないからです。では、なぜ、福音記者マタイはこのようなことを書いたのでしょうか。このことを考える前にヘロデ王のことに少し触れてみたいと思います。

《康由神父の聖書教室(18)》

ヘロデ王の姿を巡って

福音書からすると、ヘロデはとんでもない王であつたかのようなイメージを受けます。しかし、史実としてのヘロデは単なる暴君では

なく、「大王」と呼ばれる程、政治的手腕に優れた人物でした。彼の治世下では外敵との戦争も国内での叛乱もほとんど起きなかったことがそれを物語っています。

また、宗教的には寛容的な政策を取り、どのような宗教的规定も損なわれないような細心の注意を払ったのです。特に、神殿の改築にあたっては、財政的な多額の

補助をしたと言われています。ところが、ヘロデは民衆から愛されませんでした。なぜなら、彼はイドマヤ人であったからです。彼はユダヤ人たちにしてみれば異邦人であり、民衆は彼をローマ帝国の手先と考えていたのです。また、専制的で独裁的な力による支配をしてきたことも事実です。具体的には、ヘロデには4人の奥さんがいましたが、その中でハスモン家の血を引くマリアンメの二人の息子を

含み多くの人々を反逆者として処刑してしまつたこと、また、勝手に大祭司を任命し、その一人を殺害したことが挙げられます。こうしたことによつて、律法に忠実たらんとする人々を激憤させたことは容易に想像できます。この他、彼のギリシャ文化への傾倒を民衆は快く思っていないかつたとも言われています。いずれにしても、ヘロデは二面性を合わせもつた、ユダヤの王位に座した最後の卓越した支配者であることには間違いないようです。

キツペス神父の黙想会

内面的な生き方、信仰を活かす生き方

開催日…10月26日(土)〜27日(日)
 場所…マリア山荘(霧島市溝辺町3616-4)
 参加費…1万円(宿泊代、食事代含む)※前泊希望者は1万2千5百円となります。一日だけの出席も可能です。お問い合わせください。
 申込・問合せ 福沢智子 TEL090(2083)9223

祈りの意向

【祈祷の使徒会】
 福音宣教 教会における「宣教」の出版
 日本の教会 科学・技術に携わる人々のために

ウガンダの旅2018

風船バドミントンで遊ぶ⑨

谷山教会信徒 岩崎正幸

ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて貧しい国の子どもへの支援が続いているラ・サール学園教諭の岩崎正幸さんは、昨年夏、支援している子どもたちのウガンダを訪問した。これは生徒のために執筆した「ウガンダの旅2018」の9回目。

8月1日ナラウエヨ・キシータ地区訪問の1日目、この地区に支援チャイルドがいる人たちがそれぞれ個別にチャイルドと面会。わたしとナフリラちゃんたちのところには、現地ボランティアの通訳の方と、お手伝い役にYさんが入って下さった。ナフリラちゃんたちが話す現地の言葉は、ルキガ語という言葉らしい。言語の名前さえ聞いたことがない。一言もわからない。ナラウエヨ・キシータ地区があるキバレ県だけで4つの言語があるそう。ナフリラという名前は「天からのお恵み」というような意味があるらしい。一方洗礼名のフロレンスは教会で



風船バドミントン、初めてにしてはとて上手

自身は、小学6年生。ある程度英語を習っているはずとはいえ、実際に使うことにはないのだからと思う。お母さんやおじさんも全く英語はわからないようだ。直接の意思疎通はできず、ボランティアさんの通訳を頼るしかない。いろいろ尋ねてはみるものの、いつのまにか質問の主語がyouからsheになってしまつて、ボランティアさんとの会話になつ

頂いた名前なのか。たいてい洗礼名は聖人の名前を、やかつて頂くのであるが、日本ではあまり聞いたことがない。ウガンダは独立前イギリスの保護領だったので、イギリスあたりでポピュラーな名前なのかと思つたけど、オリバー先生がおっしゃるにはあまり聞かない。ナイチンゲールの名前がフロレンスだ、と教えて下さった。ナイチンゲールがカトリックかどうかは知らない。

KJP (鹿兒島正義と平和協議会) 通信 10月号

8月は過去を振りかえる月であった。6日、9日の広島・長崎原爆投下、15日の敗戦記念日、いずれも歴史をふりかえる「時」であった。単に過去のできごとを過ぎ去つたものとして眺めるためではない。ヨハネパウロ二世が言ったように「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担う」ためである。過去から何を学ぶかということが、信仰の試金石でもある。

の非常時にあります。真理に生き、真理のために犠牲を惜しまないカトリック者は、忠君愛国の精神を発揚しなければなりません。また、「日本天主教戦時活動指針」(1943年)においては、「総力を結集して、大東亜戦争の目的完遂に邁進すべきである」という綱領の下、「自由主義思想の撲滅に務めて、思想国防の完璧を期すること」「大東亜戦争の大業に貢献すること」などが実践要目としてあげられている。

り、公文書として残っている。「歴史から何を学ぶか」(カトリック中央協議会編)の中には戦争協力を推進した文書が他にも掲載されている。これらを読むと国家が暴走し始めることの脅威と、それに抵抗できなくなる「信仰」の無力さに愕然としてしまう。賢明な指導者たちが、どうして国家のお先棒を担いでしまふのか、今でも釈然としない。「時代のせいであり、仕方がなかったのだ」「本心は、そう思っていないが、やむを得ずこういう声明を出したのだ」「軍部の圧力があり、教会を守るために仕方がなかったのだ」と言つても合理化、正当化にししか聞こえてこない。当時の司教たちの呼びかけを真に受けて、戦死した信者もいたはずだ。信者

でなくてもカトリック教会に信頼を寄せていた人々は、戦争協力の決意を固めたかもしれない。更に言うと、300万人の日本国民と2000万人のアジアの人々の戦死という事実に対して、現代を生きるわれわれ自身も責任を背負っているのである。いのちと人格の尊厳を守り、神さまと他の人々たちを大切にすることを生きたための核心とするカトリックの信仰にとつて、それと正反対の戦争を容認したり、黙認することは赦されないのである。

ために「責任」の自覚が述べられている。わたしとしてはカトリック教会の「戦争責任」を検証する必要があると考えている。まだ今は「表現の自由」が保障されておられ、教皇たちも過去の誤りを認めることに積極的だからである。そして具体的な活動として自衛隊の軍隊化を容認する憲法9条の「改正」に反対して、アジア太平洋地域の人々との共生、人間の安全保障に努めるべきだろう。(紫原教会 山下和実)

文芸 短歌

雨上り路地を這ひゆく兜虫われの気配にピタリと止まる 裏庭にひっそり咲きし山百合に透かきさす揚羽の近寄りて来ぬ

鳴池教会 前田 儀子
永遠の嗜好のただなか戦に死にたるサン・テグジュペリの星物語
ミシン踏む教会の午後お隣から園児のお祈りきこゆ

か運動神経がいい。軽快な動き。きつと日常の運動量は多いのだろうと思う。わたしの方が疲れてきて休む。またいくつか質問。そのうち、これだけは聞いておきたいと思つていたことがあつた。それは、将来の希望。昨年の成長記録の中に、To be a sister and Serve Godとあつて、それは今も変わっていないのかな、ということ。15歳の小学6年生の希望だから、それはあくまで夢なのだろうが、そ

なつても自分は会うことはできない。今日別れたらもう二度と会うことはないのだ。来年でこの地区の支援は終わり。そして、この支援は、お互い連絡先を交換してはいけないことになつていく。あくまで、WV(ワールド・ビジョン)を通じての交流。割り切らなければならぬ。おそらく手紙のやりとりもあと数回だろう。

ザビエル書院から
2020年のカトリック手帳、カレンダー等と予約受付は10月末までです。ご連絡ください。早めにご予約ください。
TEL099 (224) 6456

食。用意されたメニューは、鶏肉、さつまいも(ゆでてつぶしてある)、煮豆、ライス、パスタ(味はとくについていない)、スイカなど。ナフリラちゃんは手で上手に食べる。インドの人たちと同じ要領。どうして汁ものまで手で食べられるのだろう、といつも不思議に思うのであるが、なぜかきれいに食べるのである。その要領をしげしげと観察するわけにもいかず。

社会問題の分かち合い

(毎月第三土曜日)
時: 10月19日(土曜日) 13時~16時

場所: 教区本部
内容: 原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他